

第6回草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会 会議録

■日時：

令和3年12月24日（金）10時00分～11時00分

■場所：

草津市役所 4階 行政委員会室

■出席委員：

川口委員、肥塚委員（座長）、佐野委員、塚口委員（副座長）、福知委員、山下（智恵）委員、山下（剛）委員、吉川委員

■欠席委員：

今達委員、平井委員

■事務局：

総合政策部 木村部長、岸本総括副部長

企画調整課 小川課長、村上係長、三谷主査、磯田主査

（説明員）

まちづくり協働課 中立課長補佐

商工観光労政課 重政課長補佐

健康福祉政策課 田村課長補佐

■傍聴者：

なし

1. 開会

【木村部長】

本日は、第6回草津市まち・ひと・しごと創生推進懇話会の開催にあたりまして、大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

先日、総務省が発表した2020年国勢調査の確定値によりますと、外国人を含む日本の総人口は、2015年の前回調査と比べて、約95万人の減少となり、2回続けての減少を記録したところでございます。

一方で、滋賀県では約700人の増加となり、こちらは12回連続での増加となっておりますが、その増加率は1975年以降、下がり続けているところでございます。

本市におきましても、現状は人口増加となっておりますものの、2030年にはピークを迎え、その後は、いよいよ人口減少が現実のものとなることと想定しております。

本市では、このような想定に対して、平成27年度に策定した草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、近い将来訪れる人口減少局面で生じる様々な課題による影響を最

小限に食い止めるとともに、さらに魅力的で持続可能なまちであり続けることを目指し、必要な取組を推進しているところです。

こうした中、本日につきましては、令和2年度において、地方創生の取組を推進するため、国からの交付金を活用して、「要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト」や「ビワイチ推進プロジェクト」などの事業を実施いたしましたので、このあと、事業の効果等について皆様に御検証をお願いさせていただきます。

本日は、第6回目の開催となりますが、懇話会の委員の皆様より、市の取組に対する御意見や御助言等を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

2. 委員紹介

【参考資料1に基づき紹介】

3. 議事

(1) 令和2年度 総合戦略の指標および重要業績評価指標の実績値について

●事務局

【資料1に基づき説明】

【 質疑なし 】

(2) 令和2年度 地方創生関連交付金事業の効果検証について

●事務局

【資料2-1、2-2に基づき説明】

《地方創生関連交付金事業全体について》

●副座長

「要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト」という事業名はわかりにくいので、副題をつけるなどして、何が行われ、どういった効果があったのか、市民の方にわかりやすい工夫があればよいのではないかと感じた。

●委員

効果検証において、「地方創生に効果があった」と説明があったが、複数の区市町で事業を行う中で、この結論が異なる場合はあるのか。

●事務局

県市町の連携事業として、県全体のK P Iを設定し、その実績値に基づいて評価を行うため、事業効果について県市町間で結論が異なるということはないが、県・各市で行っている取組はそれぞれ異なることから、事業の改善点など、御意見をいただければと考えている。

●委員

例えば「ビワイチ推進プロジェクト」において、草津市独自で行っている事業というものはあるのか。

●事務局

草津市としては、草津川跡地公園のa i彩ひろばにおいてイベント開催を行っている。来年度には、草津川跡地と湖周道路との接続部において、アンダーパスが整備されることで、草津駅から草津川跡地公園を通過して、そのまま湖周道路へアクセスできるようになる予定であることから、地の利を生かしたイベント開催ということで、「ビワイチをするなら草津市から」というブランディングを進めて行く予定である。昨年度については、新型コロナウイルス感染症拡大状況により、イベントが開催できなかったが、今年度は11月に開催でき、今後についても草津市観光物産協会とも連携しながら取組を進めていきたいと考えている。

●座長

「要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト」についてはどうか。

●事務局

草津市としては、健幸都市づくりとして、これまで取り組んできた健康福祉施策のみならず、まちづくり、教育等、分野横断的に事業を進めている。「出かけたくなるまちづくり」、「歩きたくなるまちづくり」などを他部局と連携して進め、K P Iにある健康寿命の延伸等を目標に取組を行っている。

●委員

他府県からビワイチに来ている方の話を聞くと、宿泊するのは今津やマキノなど北部が多く聞かれるので、経済効果として偏りがあつたりするのだろうが、そういった細かな検証はなかなか難しいと感じた。

●委員

「ビワイチ推進プロジェクト」について、先ほどの説明において次年度の取組についても説明があつたが、資料2-1の「今後の方針」においては、「事業の終了」と記載されている。これは地方創生関連交付金事業としてではなく、市独自で事業を実施するということか。

●事務局

「ビワイチ推進プロジェクト」については、計画期間が令和2年度末までということで、「事業の終了」と記載させていただいたが、続く、資料3-1にて詳細を説明させていただくが、「ビワイチ推進プロジェクト」を深化・高度化させた継続事業として、今年度より「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」を実施し、そちらで交付金をいただきながら取組を進めているものである。

●委員

どのプロジェクトにおいても、事業効果として、定められた評価方法により「地方創生に効果があった」と記載されているが、本交付金の趣旨としては、やはり「地方創生に非常に効果的であった」を目指すべきものであろうから、今後の事業内容の充実や改善等を合わせて考えていくことも重要だと感じた。

●座長

それでは「要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト」の事業の評価については、KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善していることから、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」としてよいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

続いて「ビワイチ推進プロジェクト」の事業の評価については、KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善していることから、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」としてよいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

続いて「常盤学区における地方創生拠点整備プロジェクト」の事業の評価については、KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善していることから、「地方版総合戦略のKPIの達成に有効であった」としてよいか。

→ 異議なく「有効であった」と了承される。

(3) 令和3年度 地方創生関連交付金事業について

●事務局

【資料3-1、3-2に基づき説明】

●委員

「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」に関する連携市町について、前回のプロジェクトから、高島市と東近江市が抜けているのは、個々の市町で検討され、連携をしないことで判断されたのか。

●事務局

新たにプロジェクトが始まる際は、県取りまとめのもと、各市町で連携に向けた意思表示を行うこととなっている。特に継続事業については、従来の取組を深化・高度化させながら事業を継続していく必要があるが、そういった整理が困難であったのか、もしくは独自で事業をされることとしたのか、理由は把握していないが、両市において連携をしないことと整理されたものと考えられる。

●副座長

「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」について、事業概要に「公共交通機関などと組み合わせて展開し」と記載があるが、草津市においては具体的にどのような取組を行っているのか。

●事務局

草津市では、旧草津川に沿って走ることで、市街地を通らずに湖周道路へ出られることが特徴であるので、駅前にレンタサイクルを誘致するなど検討し、電車を降りてそのままピワイチに向かえる環境を整え、「ピワイチをするなら草津市から」のコンセプトでPRしていきたいと考えている。

●副座長

草津市では自転車ごとバスに乗車できるような取組は実施していないのか。

●事務局

自転車ごとバスや電車に乗車できるよう取り組んでいる自治体もあるが、本市では実施しておらず、JRとの連携により事業展開をしているものである。

●委員

「常盤学区における地方創生拠点整備プロジェクト」について、KPIに「地方創生拠点としての常盤まちづくりセンターでのコミュニティビジネスの実施による収入の増」を挙げられているところ、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって、実績値が85,500円に留まっていると思うが、令和3年度の目標値が500,000円となっている。高めの目標値の設定をされているように思うが、どのような分析をされているか。

●事務局

コミュニティビジネスの実施について、常盤学区においては、コミュニティカフェの実施や農産物販売等を行うことで、この目標値を達成できるよう取組を進めているところである。令和2年度は10回のカフェの開催を行ったところで、その売り上げを実績値として計

上している。しかしながら目標の達成に向けては更なる取組が必要であると考えており、今年度の展開として、「農家レストラン」ということで、地域のお米を活かしたメニューを追加するなど、地域でも盛り上がりを見せているところである。

●委員

各プロジェクトにおいて、K P I が複数設定されているが、評価はまとめて行われている。K P I ごとに評価できれば、大幅に達成できた目標値についてはさらなる目標値を設定したり、達成が困難な目標値については改めて検討して設定しなおしたりするなど、柔軟に対応できるとなおよいのではないか。

●事務局

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、当初設定した目標値の達成が困難な指標も考えられるが、交付金を取り込んで事業を行っている仕組み上、目標値の修正と交付金の取り込み額とが連動しているため、なかなか柔軟な対応が難しい面もあるが、いただいた御意見も参考とさせていただき、今後、計画策定の際には十分検討していきたいと考えている。

●委員

その視点でみると、「健康でエコなマイクロツーリズム推進プロジェクト」は今年度からの計画であり、それぞれK P I と目標値が設定されているが、これらはアフターコロナを見据えた設定となっているのか。また、「(1) 健康でエコなマイクロツーリズムによる経済効果」や「(2) サイクルツーリズムの自転車利用に伴うCO₂削減の増加量」の目標値はどのように算定するものか。

●事務局

いずれのK P I についても県にて取りまとめられるものであるが、「(1) 健康でエコなマイクロツーリズムによる経済効果」については、「ビワイチ体験者数」を県が実施する体験者向けアンケートにより把握し、その数字を「宿泊した方」と「日帰りした方」に按分され、それらに滋賀県産業連関表による一人当たりの経済効果を乗じて算出されるものと確認している。

「(2) サイクルツーリズムの自転車利用に伴うCO₂削減の増加量」についても、同様のアンケートにより、「北湖一周された方」と「琵琶湖一周された方」の人数を算出し、それらにそれぞれの距離を乗じ、さらに国土交通省公表の「自家用自動車の二酸化炭素排出量」を乗じることで算出するものとなっている。

また、これらのK P I の目標値の設定については、コロナ禍での計画策定でもあったことから、一定のコロナ影響も加味し設定されたものと考えている。

4. 閉会

●岸本総括副部長

本日は師走の大変お忙しい中、当懇話会に御出席賜りまして、また、貴重な御意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。本日、皆様から頂戴しました御意見を参考にさせていただき、今後、事業を推進してまいりたいと考えております。

本懇話会においては、平成27年度に策定しました「第1期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間を1年延伸し、計6年間に渡り、各取組について、評価、御助言等を賜ったところであります。

総合戦略の趣旨である「人口減少対策」と「地方創生」という観点で、本市においても取組を進めているところですが、今年度4月よりスタートしました「第2期草津市総合計画」と、それに包含し策定しました「第2期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、これからも事業を進めてまいりたいと考えております。

今後におきましても、皆様それぞれのお立場から貴重な御意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしく御指導、御協力を賜りますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

以上